



みやぎ

基本理念

私たちは、国立病院の使命を認識し、当院を利用されるすべての方々に信頼され、かつ満足していただける医療サービスと生活支援をめざしております。

宮城病院は新たに開放型病院の方式を取り入れました

宮城病院副院長 佐藤 智彦

田植えの終わった一面の水田に白いサギが飛び交い、山々の萌葱色も緑が濃くなり夏に向けて季節は移りつつあります。皆様には日頃から宮城病院をご利用いただき心から感謝申し上げます。

さて、当院は以前から「地域医療との連携」という立場からセミオープンシステムの導入、アボ当直体制そして地域医療支援ベッドの設置等の取り組みを行って参りました。

今回は本年6月1日より地域医療支援オープン病床の開設（開放型病院）の施設基準が得られましたので、この『開放型病院』について、これまでの取り組みとその概要をここにご紹介いたします。

開放型病院（オープン病院システム）とは

先ずこの施設基準を得る為には以下にあげた3つの条件が必要となります。

- (1) 「病院」であること、
- (2) 当該病院が存在する地域すべての医師・歯科医師に開放されていること、
- (3) (2)の目的の為の専用病床が適切に備えられていること（開放病床は概ね5床以上あること）です。

この(1)と(3)は問題なく条件をクリアしましたが、(2)に関しては開放利用に関わる地域医師会の合意（契約等）そして病院の運営規程に明示されることが必要とのことで、これは開放病床の設置・運営規程、細則、運用の手引き等を盛り込んだ協定書を取り交わすことが義務付けされております。そのため協定書は5ヵ月前から医師会とのやりとりが行なわれてようやく完成し、4月5日松村亶理郡医師会長と木村院長との間で締結調印がなされました。

次に登録される医療機関の数の問題ですが、これは20以上の診療所の医師・歯科医師の登録、または当該地域の5割以上の登録が必要とのことで、これも亶理郡医師会の先生方のご協力をいただき25診療所（医師27名）の登録をいただきました。そして施設基準を得る最後の問題は開放病床5床の利用実績（20%以上）でした。これも締結後の試行1ヵ月間の利用率が60%となり無事クリアできました。

平成12年4月、当院がセミオープン化して以来7年、ようやく本格的オープン化の運びとなりました。このことは職員皆様と亶理郡医師会の先生方のご協力ご尽力の賜とここに深く御礼申し上げます。

最後に「従来の一般的な病診連携」と「オープン病床利用の病診連携」の形の違い及び診療報酬の評価を図1にオープン病床利用フローチャートを図2、3にまとめました。

さて、この施設基準を得たことは、当院にとりましても大きな宝物を得たようなものと思っております。それはいかなる病院も患者様が来なければ病院は成り立ちません。その患者様を確実に紹介していただき、一緒に診療に関わっていただく登録医の先生方、いやこれはむしろ我々にとっては新たな仲間が出来たものとも思っております。そしてこのシステムが地域医療の核となるばかりか、当院にとりましても近い将来に町立病院的役割と地域医療支援病院の2つの構想を合わせ持つ新病棟建設の実現に大きな起爆剤になるものと確信しています。



左から佐藤副院長、松村亶理郡医師会長、木村院長

1. 入院までのながれ

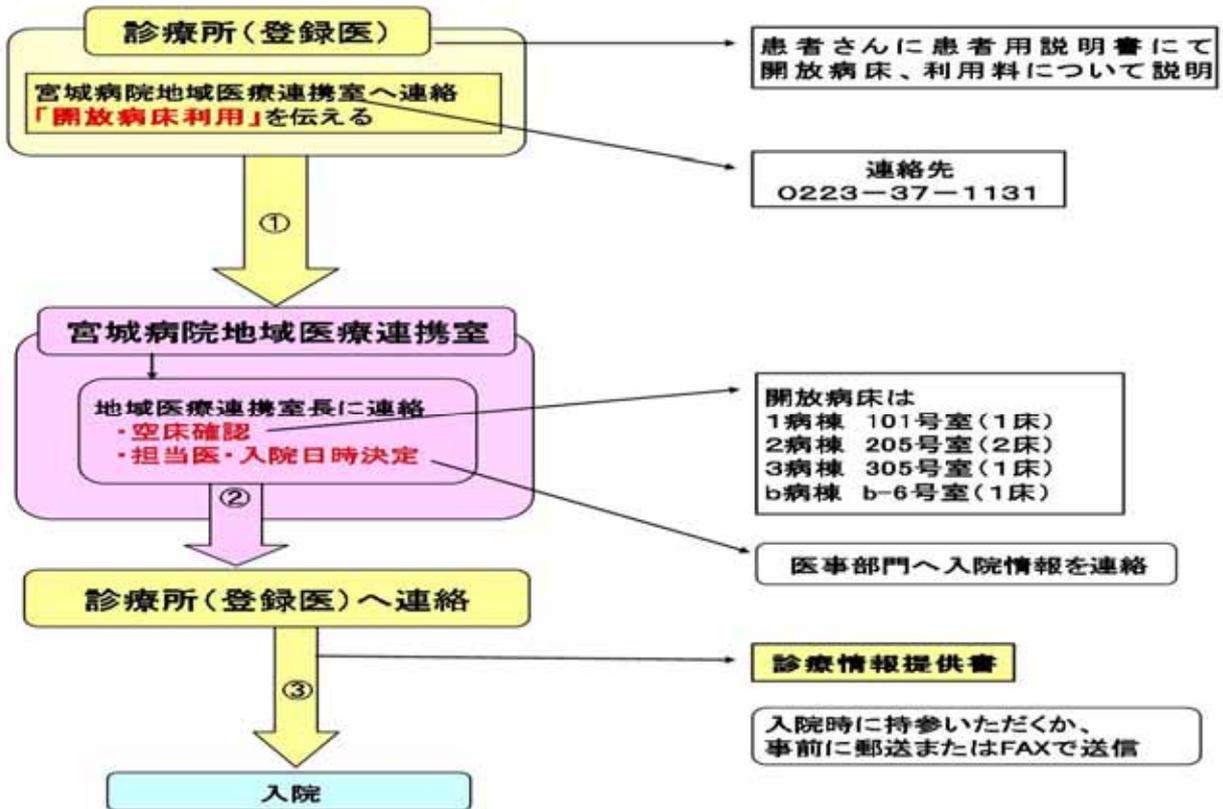
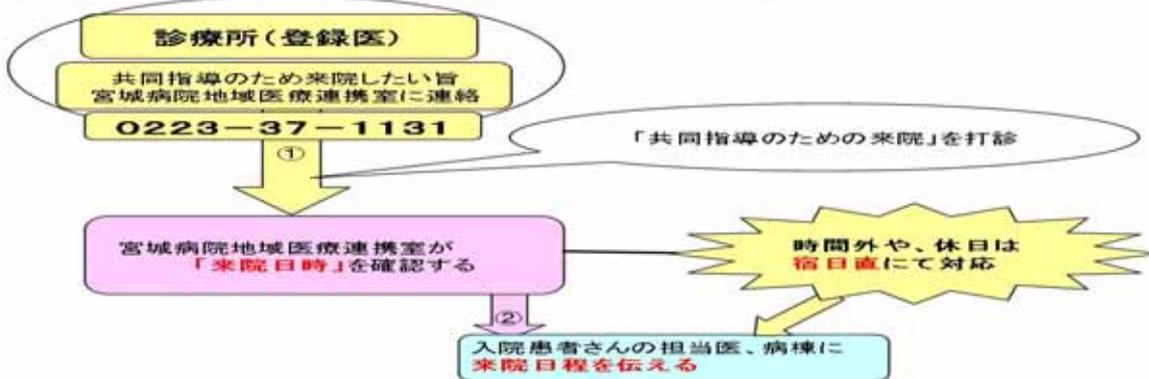


図2 登録医の開放型病床利用フロー(平日8:30~17:15)

2. 来院(共同指導)までのながれ



3. 登録医の先生が来院する時のながれ

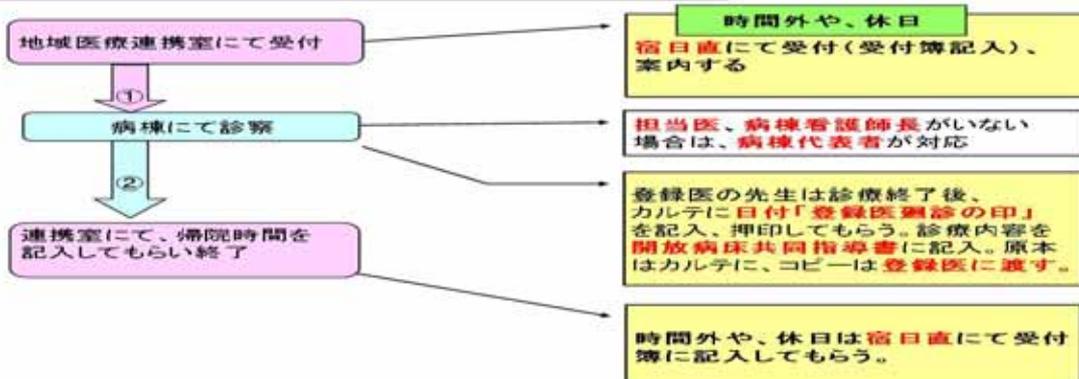


図3 登録医の共同指導フロー

クリニカルラダー【看護部の取り組み】

看護部では、看護の質向上・看護実践能力や意欲に焦点をあて、一人一人の育成をしようとする、クリニカルラダーシステムを取り入れています。このシステムは、個人目標管理のなかで指標となり自己成長のために活用されています。

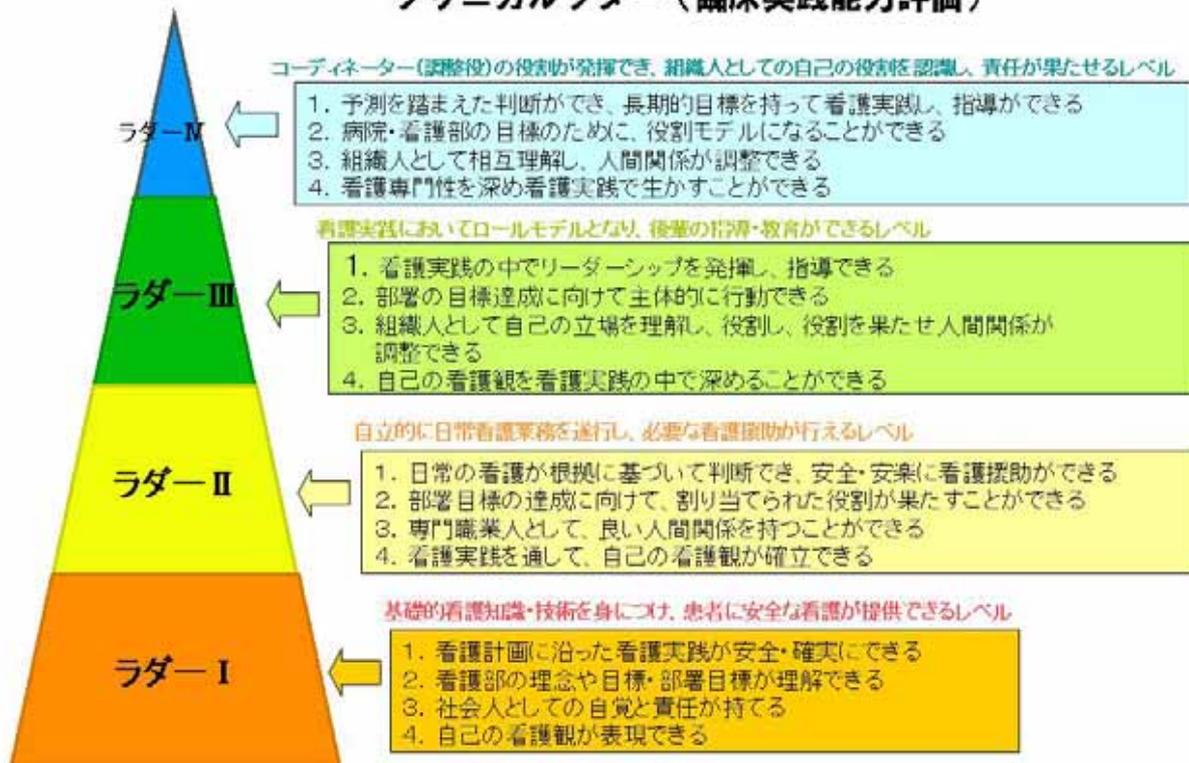
立ち上げまでは、プロジェクトチームが中心となり、試行錯誤しながらではありましたが、今年4月には、第1回の「ラダー認定式」を迎えることができました。認定式では、全員が、名前を呼ばれると「はい！」の返事とともに胸を張って自信に満ちており、イキイキと輝いていたのが印象的でした。

ラダー認定申請には、自己目標の達成度を評価したものと看護観の提示が必要で、今回申請された方々の「私の看護観」からは、それぞれの看護への思いが伝わってくるものがあり、患者さんや家族への思いや実際に行っている看護が明確に表現されていました。

今後、このシステムを活性化させ、看護スタッフが切磋琢磨することにより、魅力的な看護部となることで、地域の方々に選んでいただけるような看護を目指したいと思います。

(ラダープロジェクトチーム 丹野 くみ子)

クリニカルラダー（臨床実践能力評価）



看護職員採用説明会（弘前・仙台）に参加して

今年も看護職員採用説明会が始まっております。6月30日に弘前、7月7日は仙台で行われました。

当院でも効果的なアピールをするため、試行錯誤を重ねて準備をいたしました。今回からはブースの掲示物は、ポスター以外に説明時はパソコンを活用しました。まだまだパソコンを使用して説明をしている病院は少なく、参加者の方々からも好評を得ることができました。

6月30日は国立病院機構弘前病院附属看護学校出身 a 病棟看護師の鉄佳代子さん、事務からは山田経営企画係長の参加があり、二人とも弘前出身ということでとても頼もしい応援がありました。弘前では総勢70名ほどの看護学生が集まり、当院にも鉄さんの後輩を始めとして、多くの学生さんが集まってくれました。特に具体的な教育プログラムについては、大変興味を持ってくれたように感じました。

7月7日は仙台国際センターで行われ、総勢200名の学生さんの参加がありました。弘前同様、仙台でも最初は機構本部からの説明があり、「プリセプターの実践について」の説明を今回は当院 b 病棟看護師の熊田美保さんが行いました。ユーモアを交えた分かりやすい説明は、終了後たくさんの拍手がありました。

折しも、この日は七夕でした。当院ではそれにちなんだ効果的アピールを考え、ブースには師長や外来の看護師が作成してくれた七夕を飾り、更に参加学生さんの先輩看護師3人には浴衣を着てもらい、七夕のイメージを作りました。素敵な浴衣姿の3人の写真をご覧ください。3人は水吉職員係長の手作りうちわを持って、すがすがしい笑顔で学生さん達に声をかけていました。七夕をイメージしたアピールは成功し、当院のブースに多くの学生さんが集まってくれました。

今年も多くの職員の力を借りて看護職員採用説明会は順調に行われております。

平成20年度も職員一人ひとりが心から新人看護師を迎え入れる姿勢を持ち、皆で支えていきたいと考えております。

たくさんの看護師さんたちが当院に来てくださることを七夕に祈って……。

（副看護部長 渋谷 久美子）



職場紹介 ～内科外来・中材～



当院では、褥瘡予防対策マットレスの中央管理を行っています。

患者様に清潔なマットを提供したいという一心で日々マット整備に情熱を燃やしているミスター伊藤と、少ないマットレスを効果的に使用するために、簡単に確実にマットを管理する方法はないものかと頭を悩ませている師長の二人三脚で仕事をしています。ミスター伊藤は、1～3病棟の入浴介助やネブライザー、車椅子、スタンド等の整備も受持ち、引く手あまたの日々の中、マット管理のためのPCへのデータ入力も始めました。マットの使用状況確認のため、時々2人で病院を巡回させていただこうと考えています。どうぞよろしくお願致します。

（中央材料室看護師長 佐々木 千恵子）

主な紹介医療機関（平成19年4月～6月末日現在）ご紹介ありがとうございます

- ・松村クリニック（28件）
- ・みやぎ県南中核病院（15件）
- ・渡辺病院（12件）
- ・平田外科医院（12件）
- ・総合南東北病院（9件）
- ・公立相馬総合病院（20件）
- ・羽根田医院（13件）
- ・東北大学医学部附属病院（12件）
- ・菅野医院（10件）
- ・金上病院（9件）

上位10医療機関、他93医療機関からご紹介いただいております。

出身大学は、九州の久留米大学です。夏の暑さを除けば、暮し易い所でした。東北に戻るつもりはなかったものの、「両親が年を取り、帰ってきて欲しいと望んでいる」という話が周囲から聞こえてきました。戻るにあたり、外科を一人でやるのは無理なので、「診断を中心に診療しよう」と決め、九州がんセンターで半年間、内視鏡の研修を受けた後、帰郷、昭和56年5月より、亡父（源弑）と共に診療を始めました。

当初は、鉄筋コンクリート造一部三階建の有床診療所でしたが、20数年の経過で、設備も人間も老朽化。思い切って、平成14年、木造の無床診療所に。バリアフリーを目指しました。

現在は、消化器系、循環器系の患者様を中心に、小児外科、父の代からの小児科も含め、幅広い年令の患者様を診察しています。往診も積極的に対応し、在宅医療の手助けができればと思っています。

宮城病院には、以前より、地域の中心的病院としてお世話になっておりましたが、脳神経内科ばかりではなく、内科一般の患者様の紹介も受け付けて頂けるよう、感謝と共にますます充実されることを願っております。

（大友医院 大友源一郎）



大友医院のご紹介

診療科 / 消化器科、循環器科、外科
 住 所 / 〒989-2351
 宮城県亘理郡亘理町字五日町39
 TEL / 0223-34-1335

生活習慣を見直そう ~ 高尿酸血症 ~ 薬剤科から

<高尿酸血症>

高尿酸血症とは血中の尿酸値が異常に高くなった状態で、血液中に溶けきれない尿酸が体の色々なところに結晶として蓄積していき、痛風を初めとする多くの障害をひきおこします。高尿酸血症の患者数は現在約500万人、痛風の患者数は約50万人いるといわれています。高尿酸血症の原因として、尿酸の産生が過剰になる場合と、排泄が低下する場合、およびそれらの混合した場合があります。

<尿酸排泄低下型>

多くの患者さんがこのタイプといわれています。遺伝や肥満が関与しているともいわれています。また腎臓の機能が低下しても尿酸の排泄が低下します。

<尿酸産生過剰型>

全体の約1割がこのタイプだといわれています。プリン体を多く含む食品を過剰に摂取する(この季節はビールなど)、激しい運動を行う(細胞が破壊され、体内で合成されるプリン体が増加する)のが原因です。

次に、高尿酸血症の合併症を紹介します

【痛 風】

痛風は体液中に含まれる尿酸が異常に増え、関節や腎臓などに沈着して炎症を起こす病気です。ある日突然に、足の親指の付け根などが腫れ上がり激痛がおこります。何回もくり返すと関節や骨が変型することもあります。

【腎機能障害】

尿酸が沈着し、動脈硬化も加わって腎臓の機能が落ちてしまいます。

【動脈硬化症】

高尿酸血症では動脈硬化症が起こりやすくなるといわれています。

【尿路結石】

尿酸の結晶で結石が出来やすくなります。

高尿酸血症の治療方法は、大きく分けて「食事療法」「運動療法」「薬物療法」があります。食事療法はプリン体を多く含む食品を減らした献立にし、アルコールは控えます。また水分(ビールはダメ)を多くすると尿への尿酸の排泄が増加します(一般的に1日1200mLの尿量といわれていますので、2000mLの尿を出すよう、普段飲んでいる倍の水分量を目安にすると良いといわれています)。

運動療法は高尿酸血症では運動がきつすぎると筋肉が壊れてかえって尿酸を上昇させてしまいますので他の病気に比べ、弱めの運動をこころがけましょう。薬物療法ですが、食事療法や運動療法で改善しない場合は、薬物療法を行います。薬物には、尿酸の産生を抑える薬、排泄を促進する薬、痛風の発作を改善する薬があります。薬にたよるだけでなく、食事療法、運動療法、水分の摂取を心がけるようにしましょう。



診療案内

平成19年7月1日現在

診療科別		月	火	水	木	金
内科		佐藤 智彦	木村 格	木村 格	佐藤 智彦	仙台医療センター医師
				志澤 聡一郎		
			米地 稔	米地 稔	米地 稔	米地 稔
神経内科	新 患	木村 格	志賀 裕正	久永 欣哉	木村 格	大隅 悦子
	再 来	今井 尚志	今井 尚志	松本 有史	久永 欣哉	
			大隅 悦子	志賀 裕正		平岡 宏太良 (高次脳機能障害)
呼吸器科		芦野 有悟				
消化器科		未 定				
循環器科		未 定				
アレルギー科		堀川 雅浩	大島 武子	堀川 雅浩	大島 武子	堀川 雅浩
小児科	午 前	堀川 雅浩	大島 武子	堀川 雅浩	大島 武子	堀川 雅浩
	午 後		小児アレルギー (堀川 雅浩)	(第1・3)乳児健診	療育相談 (大島 武子)	
外科				小島 誠一 (13時から)		
脳神経外科		大友 智	安藤 肇史	大友 智	手術日	安藤 肇史
皮膚科					第4(木)のみ 東北大医師	
リハビリテーション科		佐藤 智彦			佐藤 智彦	
		齋藤 佐 (再来)	齋藤 佐 (再来)	齋藤 佐 (再来)	大隅 悦子 (午後・再来のみ)	齋藤 佐 (再来)
歯科		中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子
専門外来	パーキンソン病外来			久永 欣哉		
	A L S 外来			今井 尚志	今井 尚志	
	もの忘れ外来					平岡 宏太良
	漢方外来	佐藤 智彦			佐藤 智彦	
	頭痛外来	佐藤 智彦			佐藤 智彦	
	脳ドック	佐藤 智彦			佐藤 智彦	
	A G A 外来	佐藤 智彦			佐藤 智彦	

受診される方へ

受付時間は8:30~11:00です。

土曜日・日曜日・祝日・休日及び年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。

ただし、救急の方は随時受け付けいたします。

お問い合わせ先 0223-37-1131

初めて当院を受診される方は、他の医療機関からの紹介状をお持ちください。紹介状がなくとも受診はできますが、その場合初診時に2,625円を負担していただくこととなりますので予めご了承ください。

交通のご案内

自動車でおいでの方

仙台方面から

仙台市中心部から南へ約40km、国道4号線6号線の分岐点から南へ約20km、国道6号線314.5kmポイントの位置です。

相馬方面から

国道6号線を仙台方面に向かい、宮城・福島県境から約10分です。

交通機関をご利用の方

仙台方面から JR常磐線山下駅下車、タクシーで約5分

相馬方面から JR常磐線坂元駅下車、タクシーで約5分

